



独立行政法人
国立国際医療研究センター

国府台

NCGM *National Center for Global Health and Medicine*

発行人 〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院長 上村 直実
TEL:047(372)3501 FAX:047(372)1858



2013. 2月
第18号

[大門通り(だいもんどおり)]

国道14号線から真間山弘法寺に通ずる真間大門通りは、門前町の歴史が随所に感じられる通りです。約1キロの直線道路を行くと弘法寺の階段です。

目次

◇ 新医師紹介	2
◇ 地域医療連携病院のご紹介	2
◇ 職場紹介	3
◇ 教育研修棟の完成	3
◇ 外来部門の一部移転	4
◇ 冬場の怖い感染症:ノロウイルス	5
◇ 市民向け講演会の開催報告①	6
◇ 市民向け講演会の開催報告②③	7
◇ 肝炎情報センター主催 看護師研修会	7
◇ 第8回肝臓病教室の開催報告	8
◇ 第66回国立病院総合医学会(神戸)	9~11
◇ クリスマスコンサート	11
◇ 消防訓練を実施して	12
◇ 児童精神科病棟の行事(もちつき)	13
◇ 肝臓病教室、市民公開講座のご案内	14
◇ 編集だより	15

*ホームページでは、カラーでご覧になれます <http://www.ncgmkohnodai.go.jp>

新医師の挨拶



(麻酔科医長 東 俊晴)

KOHNODAI, このなんとも素敵な響きのする名のついた丘の上の病院の手術室は、建物は古くとも最新鋭の麻酔設備を備えています。全身麻酔を始めとする周術期管理に携わる手術室スタッフは、学術的根拠に基づいた臨床をモットーとして日々の安全管理に取り組んでいます。比較的落ち着いた手術スケジュールを組んでおりますので、しっかりと時間をかけて患者さんに個別の周術期問題点を解決していきます。

そんな国府台病院の麻酔科医長は、周術期の安全性にもっとも大きな影響を与えるといわれている周術期輸血医療を専門としています。また周術期医療の最大の問題点である静脈血栓の増大に対する痛みと免疫機能の影響についても研究を行なっています。埼玉医科大学客員准教授を兼任し、ペインクリニック外来を担当しています。国府台病院でも、近々麻酔科外来を開設する予定です。ああ申し遅れました2012年11月に着任した“あずまとしはる”と申します。市川の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携病院のご紹介

医療法人社団安誠会やすはら内科クリニック 院長 安原 一彰

やすはら内科クリニックでは地域の皆様との信頼関係を大切に、ホームドクターとして誠意をもって生涯の健康維持のお手伝いをさせて頂いております。総合病院勤務時代の経験と知識を生かし、検査データに基づいた診療と丁寧で分かりやすい説明を心がけております。

精密検査や入院治療が必要な場合は、適切な病院をご紹介します。スタッフ一同、親切な対応を心がけております。

高度な総合医療をご提供いただいている国立国際医療研究センター国府台病院には患者さんの精密検査・入院治療等で大変お世話になりとても助かっております。そして迅速な対応、診断治療結果の詳細なご返信等をいただくことにより患者さんの診療に還元でき、開業医としてこれほど心強いことはありません。これからもよろしくお願い申し上げます。



〈資格〉

- ・日本内科学会 認定医
- ・日本消化器病学会 認定専門医
- ・日本超音波医学会認定専門医・指導医
- ・日本医師会 認定産業医
- ・超音波ドプラ研究会 第7回研究会会長

- 住所：市川市市川2-1-1 パークノヴァ市川101
電話：047-325-8882
診療科：内科・消化器科・循環器科・呼吸器科
アレルギー科(花粉症etc.)
各種検診：市川市特定健康診断、企業健診、雇入れ時健康診断
他 各種ワクチン接種
診療時間：午前9:00～12:00 午後15:00～18:00
休診日：木曜日・土曜日の午後・日曜日・祝日
検査：上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査(エコー)
レントゲン検査、心電図、血液ほか
交通：JR市川駅徒歩1分
市川駅東京寄り改札を出てシャポーを直進し、
出口を出て道路を右に進みすぐ



新病棟がオープンしましたので、今月号から3回にわたって各病棟の職場紹介をさせていただきます。
2月号では、2階の南・北病棟を紹介します。

2階南病棟の紹介



2階南病棟 スタッフ

2階南病棟看護師長
飯田 智博

内科、神経内科に新しく内分泌・糖尿病を加えて2階南病棟として新しくなりました。内科には肺炎や尿路感染、敗血症の方が入院されており、主に点滴治療を行っています。神経内科は脳梗塞やパーキンソンの方が入院されており、内服治療以外に日常生活援助やリハビリテーションを通して残存機能を高める様に関わっています。内分泌・糖尿病は糖尿病を主として甲状腺疾患などの方も入院されています。糖尿病疾患の多くは生活と密接に関わりがあるので、入院中から退院後の生活を見据えて、食事や薬・運動などの健康管理が自ら出来るように一緒に考え、支えていくことが大切であると考えています。

新しく明るい病棟に負けない位にスタッフも明るく元気です。医師、ソーシャルワーカー、薬剤師、理学療法士などとチームワークを取りながら入院生活が安全に、そして安心して療養出来る様に取り組んでおります。

2階北病棟の紹介



2階北病棟 スタッフ

2階北病棟看護師長
今井 千鶴子

2北病棟は呼吸器・循環器・リウマチ科の病棟です。呼吸器科では、誤嚥性肺炎、気管支鏡による診断から抗がん剤治療までを行い、循環器科では循環器疾患全般に対応し、心臓カテーテル検査を週2～3例行っております。また、リウマチ科では、関節リウマチ・膠原病の患者さんが多く入院しております。治療では日帰り入院による点滴治療等も行ってあります。

新棟移転に伴い複数の部署から看護師が結集されたフレッシュなチームなので、毎朝、看護師・医師合同でミーティングを行なっており、1日の連絡事項、1日の計画、打ち合わせ等、医師・看護師の連携を密にしております。また、患者さんが安心して退院できるよう医師・看護師・地域連携室・ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行い退院を支援しております。

教育研修棟整備工事の完成

事務部長

教育研修棟が完成しました。この建物はRC3階建てで高さ10.95m、建築面積674㎡、延床面積1,411㎡となっており、1階は研修室・更衣室・仮眠室、2階と3階は研修医ワンルーム宿舎24戸となっています。総工事費は約4億円強であり、工事施工は株式会社ナカノフード建設です。

建物建設にあたりましては、住民説明、埋蔵文化財調査を経て平成23年1月から工事を開始し平成25年1月末には工事が終了、その後、諸検査を受けて使用開始となります。この工事は東側市道（1168号線）の拡幅工事（セットバック工事）を同一契約しており同時進行しましたが、道路工事は平成24年7月に完成しています。また、近隣から病院をご利用される皆さまの利便性を図るため、東側に出入口を新たに設置いたしました。工事にあたりましては、市川市関係部署、地元住民の皆様のご理解を頂き、事故もなく無事完成できましたことを心から謝意を表します。

市道拡幅前



市道拡幅後



新設した出入口



教育研修棟



新病棟完成に伴い、外来部門の一部が移転しました。

①「薬局」は、新病棟1階に移転しました。

院内処方でお薬をもらえる患者さんは、外来ロビーでお薬待ちの番号表示画面をご確認いただき、新病棟1階の薬剤部までお越し下さい。

新病棟は、外来ロビーから中央廊下を進んで頂き、新病棟方向へ左折し赤いエレベーター前を通って左折して下さい。



地図①



地図②

②「消化器・肝臓内科」は、新病棟1階に移転しました。

消化器内科・肝臓内科で診察を受けられる患者さんは、外来ロビーから中央廊下を進んで頂き、新病棟方向へ左折し、新しい建物に入った両サイドが外来ブースとなります。

③「生理機能検査部門(超音波・心電図・脳波・肺機能)」は、新病棟1階に移転しました。

超音波・心電図などの生理機能検査を受けられる患者さんは、外来ロビーから中央廊下を進んで頂き、新病棟方向へ左折し赤いエレベーター前を抜けたところに受付があります。



地図③

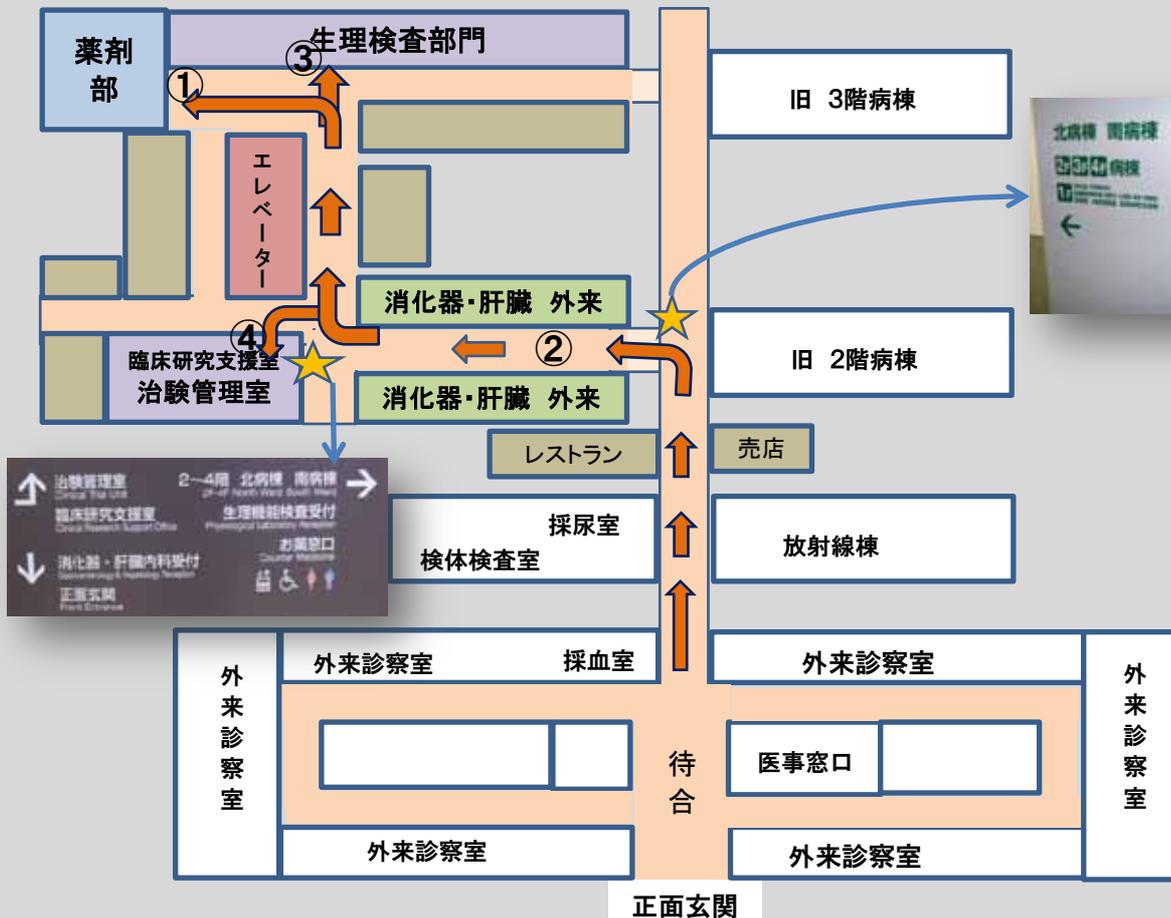


地図④

④「治験管理室、臨床研究支援室」は、新病棟1階に移転しました。

治験や臨床研究に関わる職員は、新病棟1階に移転しました。新しい建物に入ったつきあたりが治験管理室となっています。

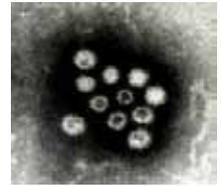
◇ 新病棟への案内図 ◇



冬場の怖～い感染症：ノロウイルス

副看護師長(感染管理認定看護師) 朴 桂栄

今シーズンは、ノロウイルス等の感染性胃腸炎が大流行しています。特にノロウイルスは、家庭内で一人発生したら、家族中で感染してしまうほど感染力が強いです。そこで、ノロウイルスに感染しないための基本的な知識と予防策についてお話します。



【ノロウイルスとは】

ノロウイルスは冬季に流行する感染症です。ウイルスが手指や食品などを介して口から入り、人の小腸で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡したりすることがありますので注意が必要です。

【感染力はどのくらい？】

ノロウイルスに感染した人には、便1g中に1億個以上、吐物1g中に100万個以上のウイルスが含まれています。1回の下痢が100ml（コップ半分程度）だとすると、その中には100億個以上のウイルスが含まれていることになります。そのうちの10～100個程度のウイルスで感染が成立するほど強い感染力を持っています。

また、症状が治まっても1週間位はウイルスを排出していると言われています。

【治療法はあるの？】

ノロウイルスの治療薬はなく、整腸剤や輸液などの対症療法に限られます。症状は通常、1～2日で治まります。ただし、下痢が酷いからと下痢止めを飲んでしまうと、ウイルスが体外へ出れなくなってしまうため回復が遅くなってしまいます。

【感染を予防するには？】

先程も述べたように、ノロウイルスは手指や食品を介した経口感染ですので、予防策としては、「食事前やトイレ後の効果的な手洗い（※）」と「食品は十分に加熱する」ことが大切です。

※効果的な手洗いとは

- ・ノロウイルスはアルコールに耐性があるため、手指消毒薬はあまり効果がありません。
- ・食事の前やトイレの後には、石けんと流水で30秒以上かけて手を洗いましょう。
- ・石けんにはノロウイルスを殺菌する効果はないので、ウイルスをしっかりと洗い流す事を意識して下さい。
- ・また、爪先・指の間・親指等は洗い残しの多い部分ですので、特に注意しましょう。



【吐物や便を処理する際に気をつけることは？】

吐物や便を処理した人は、感染のリスクが一番高いです。処理をする際には、以下の点に注意しましょう。



*処理中にウイルスが口から入り感染してしまう事もあるため、処理するにはマスクを装着しましょう。

使い捨ての手袋を使用すると、より安全でしょう。

*処理した吐物や便は、乾燥するとウイルスが空気中に浮遊すると言われていしますので、密封して捨てましょう。

*処理後は塩素系の漂白剤でしっかりと消毒しましょう。

(消毒薬の作り方については次項参照)

*処理後に必ず30秒以上かけて手を洗いましょう。二度手洗いも推奨されています。



(次ページへ続く)

(前ページから続く)

【消毒薬の作り方】

* 塩素系の漂白剤は、製品によって濃度が異なります。消毒薬の濃度が薄いと、ウイルスは死滅しませんので、正しい濃度で行いましょう。下記の表は、市販の塩素系漂白剤での消毒薬の作り方です。

消毒する対象	濃度	 ハイター、ブリーチの場合 (キッチンハイターも可)	 ミルトン、 ミルクポンの場合
* 吐物や便が付着した床、物 * 吐物や便の付着した衣類のつけ置き	0.1%	500mlのペットボトル 1本の水に10ml (ペットボトルのキャップ2杯)	500mlのペットボトル 1本の水に50ml (ペットボトルのキャップ10杯)
* トイレの便座やドアノブ、手すり等 * 食器等のつけ置き	0.02%	500mlのペットボトル 1本の水に2ml (ペットボトルのキャップ半杯)	500mlのペットボトル 1本の水に10ml (ペットボトルのキャップ2杯)

市民向け講演会の開催報告

平成24年10月～11月に行われた市民向けの講演会に、国府台病院医師が講演を行いました。

① 日本消化器学会 第75回 市民公開講座

主催：日本消化器病学会関東支部

日時：平成24年10月28日(日曜日) 13:00～
 場所：市川グランドホテル 黄金の間
 テーマ：〈もっと知ろう！おなかの病気〉

肝炎・免疫研究センター
肝炎情報センター長 正木尚彦



企画運営の責任者
司会進行



日本消化器病学会関東支部からの委嘱により、市民公開講座を平成24年10月28日(日)午後、市川グランドホテルで開催致しました。当日は雨模様で聴衆の入りを心配致しましたが、国立国際医療研究センター選りすぐりの講師の先生方のご名声、各種の事前広報活動の成果もあり、ほぼ満席(256名)の大盛況でした。

当日のテーマを「もっと知ろう！おなかの病気」とし、「ピロリ菌、胃がん、C型肝炎、肝がん」に関する4つの講演を企画しました。「胃がんの内視鏡的粘膜下層剥離術」、「肝がんのラジオ波焼灼療法」について、それぞれ、わが国有数の名手であるセンター病院消化器内科横井千寿医師、国府台病院今村雅俊医長が手に汗握る治療現場をビデオを駆使しながら説明され、聴衆一同目が釘付けになっておりました。さらに、溝上雅史肝炎・免疫研究センター長が「完治を目指したC型肝炎治療」、上村直実国府台病院長が「ピロリ菌と胃がん」の話題を、時にユーモアを交え、豊富なスライドを用いて大変分かり易くお話されました。溝上雅史先生、上村直実先生が世界的名声を誇るその分野の第一人者であることは言うまでもありません。当日の司会・進行を私、正木尚彦肝炎情報センター長が務めました。聴衆の皆さんが大変満足されておられることを実感致しましたし、後日、私の患者さんからもお誉めのお言葉を多数頂戴致しました。市民公開講座の前日が国府台病院新棟への引っ越しでもあったことから、市川市民を始め近隣住民の方々へ国府台病院の実力を十分アピールし得たものと自負している次第です。



国府台病院長 上村直実
〈演題〉
“ピロリ菌：あなたの胃は大丈夫ですか？”



肝炎・免疫研究センター長 溝上雅史
〈演題〉
“C型肝炎：新たな治療の幕開け”



センター病院医師 横井千寿
〈演題〉
“胃がん：早期発見が大切！おなかを切らずに治せます”



国府台病院医長 今村雅俊
〈演題〉
“肝がん：切らずに治す！局所治療のすべて”

② 健康市川市民の集い

主催：市川市医師会

日時：平成24年10月20日(土曜日) 14:30～
場所：市川市医師会館
テーマ：予防できるがん



市川市医師会が主催、市川市と県医師会が後援、市川市エフエム・いちかわケーブルネットワークが協力する健康市川市民の集いが医師会館で行われました。この講演で「胃がんとピロリ菌除去」と題して上村院長が講演を行いました。



③ 市川市自治会連合協議会講演会

共催：市川市自治会連合協議会・市川市

日時：平成24年11月15日(木曜日) 13:30～
場所：市川市文化会館小ホール
～上村直実氏に学ぶより良き人生の送りかた！～
「高齢者の健康維持と病気の予防」



この講演会は、人見孝男市川市自治会連合協議会副会長のご配慮により、市川市市民部地域振興課が協力し開催されました。

講師には上村院長をご指名を頂き約300人以上の市民が集まる中、プログラムの第1部として「高齢者の健康維持と病気の予防」を題とした講演が行われました。

“より良き人生を送るために、高齢者における健康とは、予防可能な疾患と予防方法”など医師の視点から見た講演が行われました。

肝炎情報センター主催 看護師研修会

研究所事務係長
永岡 大



平成24年12月7日(金)、8日(土)の2日間にわたり、肝炎情報センター主催看護師向け研修会が開催されました。この研修会は、全国の肝疾患診療連携拠点病院における肝疾患診療レベルの向上と病院間の連携を目的に、看護師を対象として毎年開催されています。研修会開催に向け、戸谷副看護部長をはじめ、国府台病院看護部が半年以上前から準備を始めていました。

今年は昨年と開催場所が変わり、新たに立ち上がった肝炎・免疫研究センター内の研修室での開催となりました。全国の病院より60名の参加者が一堂に集まり、国府台病院からは、塚本外来看護師、林2階南病棟看護師が参加しました。

初日は、高斉外来看護師長の司会のもと、午前「B型肝炎」「C型肝炎」をはじめ、肝疾患診療に関する最新情報を講師の方々に講義していただきました。午後には他病院の看護師4名の方々に講師として各病院の肝疾患診療に対する看護師の関わり等を講義していただき、各病院が取り組んでいることや問題点などを共有していきました。夕方からは、参加者が8グループに分かれ、各グループごとに高橋外来副看護部長を含め8名のファシリテーターがつき、翌日行われる発表に向けて意見をまとめていきました。この頃になると最初は緊張していた参加者も打ち解けてきたようで、初日終了時間が過ぎても活発な意見交換が行われていました。

二日目は前日に引き続きグループワークが行われ、午後から発表会が行われました。各グループの発表はパワーポイントを使って行われ、この発表会でも活発な意見が飛び交っていました。最後に各グループの代表にグループ全員分の修了証を正木肝炎情報センター長より授与して研修会は終了しました。

この研修会は来年度も実施しますのでよろしくお願いいたします。



第8回 肝臓病教室の開催報告

肝炎・免疫研究センター
肝疾患先端治療室長 村田 一素

開催日時: 平成24年12月1日(土曜日)14時~16時
開催場所: 肝炎・免疫研究センター大研修室(1階)
司会 村田一素 肝疾患先端治療室長

1. 平峯 智 肝炎免疫研究センター 医師
どうして高齢女性でC型肝炎が治りにくいのか?
~女性ホルモンとの関連について~

2. 正木尚彦 肝炎情報センター長
B型慢性肝炎治療に最近の話題

※ 講演の終了後に肝炎、肝硬変、肝癌を中心に個別相談を行いました。

平成22年12月より開催しております「肝臓病教室」も2年を迎えました。東日本大震災の翌日に予定されていましたが、そえ以外では各回テーマを変えて年間4回(3ヵ月毎)お届けしてまいり、ご好評を得ております。

今回、第8回肝臓病教室が、12月1日(土)に肝炎・免疫研究センター大研修室にて行われました。

前日夜半より荒れた天候でございましたので心配いたしました。多くの方が参加され会場は熱気に包まれておりました。また、いつもの気楽な雰囲気の中、活発な質疑応答もなされ有意義な時間を過ごされたのではないのでしょうか?はじめに、平峯 智医師より「どうして高齢女性でC型肝炎が治りにくいのか?~女性ホルモンとの関連について~」と題して、女性ホルモン量とC型慢性肝炎治療の関連を彼の研究成果と臨床を照らし合わせながら詳しい説明がありました。若い女性は男性よりもインターフェロン治療の効果が良いにも関わらず、高齢になると(特に閉経後)女性における効果が低くなるのは女性ホルモンの低下と関連があるというお話でした。また、その場合は女性ホルモン製剤をインターフェロンと同時に服用することによって改善するという明るい将来展望もお話いただきました。ただ、この件については、まだ研究段階であり、実用化までにはもう少し研究が必要であると思われる。

次に正木尚彦肝炎情報センター長より、「B型慢性肝炎治療の最近の話題」と題し、B型肝炎の発症機序、最近の日本におけるヨーロッパタイプのB型肝炎ウイルス(HBV)の流行、および最新のB型肝炎の治療(インターフェロン、核酸アナログ製剤)についてのお話がありました。その中で、肝硬変への移行あるいは肝癌発症を予防するためには、HBs抗原やHBV DNA量の低下を目安に治療を行うことが重要であることを特に強調されました。核酸アナログ製剤の登場にてB型肝炎のコントロールは良好になりましたが、薬を服用しなくてよい完全治癒は困難な現状ですが、今後の新薬の開発が待たれます。

今回は、平成25年3月16日(土)に市川市男女参画センター(JR市川駅より徒歩5分)に場所を移して行われます。毎回会場には、各肝疾患に対する食事レシピなど「お土産」もご用意しておりますので、次回もたくさんの方のご来場をお待ちしております。

なお、「肝臓病教室」の開催の詳細は、当広報誌「国府台」をはじめ、各地区の広報誌などに掲載させていただきます。しかし、残念なことに各地区の広報誌には、紙面の都合上必ずしも掲載される訳ではありません。

開催の詳細は、院内掲示板や当院ホームページ(<http://www.ncgmkohodai.go.jp/openlecture>)をご参照ください。また、肝炎・免疫研究センター 村田(047-375-4757直通)まで、ご連絡いただければ対応させていただきます。

今後も単なる情報提供に留まらず、また、皆様からのご意見・ご要望を取り入れながら、より良いものにしていきたいと思っております。



案内板



肝臓病教室

第66回国立病院総合医学会（神戸）

平成24年11月16日（金）・17日（土）、神戸市内にて第66回国立病院総合医学会が開催されました。

本学会は、国立病院機構、国立高度専門医療研究センター、ハンセン病療養所の職員など約6千名が参加する大規模な学会です。今年のテーマは「国立医療 未来と希望のきずな」でした。今年も国府台病院から多数参加されましたが、その中から数名に学会参加報告をいただきます。



シンポジウム28 : 肝疾患共同研究の軌跡と今後の展望

肝炎情報センター長 正木 尚彦



〈演題〉

国立病院機構共同研究「肝疾患」グループと都道府県肝疾患診療連携拠点病院網との今後の関わりについて

国立病院機構の肝疾患研究ネットワークの構築は長崎医療センターを中心に昭和50年代から開始され、全国30施設以上が参加しています。特に、急性ウイルス性肝炎の定点観測データはきわめて信頼性が高く、経年変化が一目で分かることから、国の肝炎対策に幾多の影響を及ぼして参りました。国立国際医療研究センター消化器内科も、国立病院医療センターの時代からこのネットワークに積極的に参加し、平成5年にナショナルセンターへ格上げされてからも、情報共有に努めて参りました。平成20年11月に肝炎情報センターが設立され、全国の肝疾患診療連携拠点病院（現在70施設、大部分が大学病院です）の取り纏めをすることとなりましたので、現在、拠点病院ネットワークを活用した種々の研究を肝炎情報センターのミッションとして遂行しております。これら2つのネットワーク間で重複している病院は2施設に過ぎないため、今回の発表では、両者が互いに手を携えることで、まさにオールジャパンの肝疾患共同研究ネットワーク構築が実現することを強調致しました。

口演10 : 救急医療・集中治療

脳神経外科医師 香川 賢司

〈演題〉

脳卒中診療のpitfall：脳卒中様症状を呈する頭蓋外疾患の経験



脳卒中診療の現場では、遺伝子組み換え組織型プラスミノゲンアクチベータ（recombinant tissue-type plasminogen activator; rt-PA）静注療法が保険適用となって以来、より迅速かつ正確な診断と治療が求められるようになりました。「顔面の麻痺」「手足の麻痺」「言語の異常」のいずれかの症状がみられる場合は脳卒中の可能性が高いため、迅速に脳卒中専門医療機関へ救急搬送することが重要です。しかしながら、脳卒中の疑いで救急搬送されても実際には脳卒中でない症例も少なからず存在し、その中には稀ながら頭蓋外疾患に起因するものもあります。本来の疾患に対する治療が遅れることで重大な結果をもたらす危険のある病態や、誤って脳梗塞の治療を行うことにより重大な障害を与えてしまう病態も含まれることから、脳卒中類似症状を呈する頭蓋外疾患は脳卒中診療におけるpitfallと言えます。限られた時間的制約のなかでこれらの疾患を鑑別することは容易ではありませんが、全国の病院がそれぞれの経験を共有することで、脳卒中診療のさらなる質の向上が図られるものと考えます。

〈ポスターセッション〉 看護師長 田中 且子

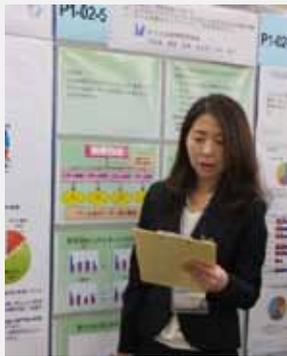


第66回国立病院総合医学会ポスターセッションにおいて「多職種による精神科リエゾンチームの発足 ～看護師長からみたチーム立ち上げにおける課題～」というテーマで発表してまいりました。発表時間が朝一番だったこともあり、前日に神戸入りし神戸市内でショッピング、神戸牛（もちろんA5ランク）のディナー、神戸の夜景、そしておしゃれなホテルに宿泊…と十分すぎる自分へのご褒美をいただき発表に臨みました。その甲斐あって（？）当日は、多職種連携における課題を明確にしたうえで今後の活躍に期待できるとの評価をいただき「ベストポスター賞」を頂戴いたしました。ご指導いただきましたみなさまに感謝いたします。

〈ポスターセッション〉

副看護師長

濱上 美穂



平成24年11月16日、17日に開催された第66回国立病院総合医学会において、「摂食障害研修を実施して～チーム医療ができる人材の育成～」についてポスター発表してきました。

この研修は平成23年度から国府台病院にて実施しています。目的は、摂食障害患者を支えることができる人材の育成です。研修内容は、医師、看護師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士、による各職種の役割とチーム医療の中の役割についての講義、病棟・外来見学・事例検討等盛りだくさんで実施しました。昨年度は、院外・院内から15名の参加がありました。この研修を行なうことで各職種が役割を理解し発揮することで質の高い医療の提供ができると考えています。そして、研修内容を充実させ摂食障害に携わる医療従事者の人材育成を継続していきたいと考えています。

〈ポスターセッション〉

看護師

大迫 恵子



平成20年からメロリットルーム、生活習慣病に対する特定保健指導が始まり、健康に関する情報がスマホやインターネット等を通じて幅広く提供されるようになりました。高齢化社会を迎え、さらに国民の健康に関する関心が高まっています。

国立病院総合医学会では、当院で実施している「週末を利用した5日間の生活習慣改善支援プログラム」についてポスター発表を行ってきました。このプログラムは、看護師とマンツーマンで今までの生活習慣を振り返り、改善方法を一緒に見つけるものです。実際に利用された患者さんの多くが退院後の体重減量に成功しています。そこで、このプログラムの中で行っている看護師のアプローチ方法を明確化、考察してまとめ、発表いたしました。このプログラムを利用した患者さんの多くは、生活習慣を変えようと頑張っているのに、なかなか成果が出ないと困っていました。自己流から脱出してもらうために、医師、看護師、理学療法士、管理栄養士と一緒に考え、一番合った方法を見つける支援が出来るよう今後も努力を重ねていきたいと思えます。

興味を持って下さった方、これからは一人で悩まず、諦めず、このプログラムを通して、自信と健康を一緒に取り戻しましょう！

〈ポスターセッション〉

理学療法士

庄子 拓良



国立病院総合医学会において『誤嚥性肺炎患者に対するリハビリテーションの早期介入がADLに及ぼす影響』についてポスター発表を行いました。

誤嚥性肺炎とは口腔・咽頭・胃の内容物を気道内に誤嚥する事によって生じる肺炎で、高齢者に多く認められます。また、リハビリテーション介入開始時、すでに寝たきりの状態になっていたり、歩行能力が低下している事が多い疾患です。発表の内容は、医師・病棟看護師との連携を意識的にすることで早期からのリハビリテーションが可能となり、入院前と同等のADLが維持できるというものでした。

国立病院総合医学会への参加は今回が初めてでしたが、他病院・他部門の方々の発表を聞く事ができ、大変有意義な時間を過ごす事ができました。今後もこの経験を生かし、臨床・研究に励みたいと思えます。

〈ポスターセッション〉

理学療法士

嶋 悠也



今回私にとって二度目の国立病院総合医学会は神戸での発表でした。

学会発表では「摂食障害に対する理学療法の経験」について発表しました。症例は入院時の体重が20kg台まで低下し臥床状態でしたが、独歩にて退院ができました。今回、理学療法が円滑に提供できたのは、しっかりと医療管理を医師、看護師、栄養士の方々が行ってたからであり、よりチーム医療が必要な疾患だと考えられました。また、当院では今回発表した症例のように、著しい身体機能の低下が認められる摂食障害患者が存在するため、医療的治療と並行し身体機能に対する治療も行っていく必要があると考えられます。しかし、摂食障害に対する理学療法の報告はほとんど散見できないため、今後は摂食障害に対しての理学療法の効果や適応、介入の意味について検討して行く必要があると思えます。

次回、金沢で行われる国立病院総合医学会にも参加していきたいと思えます。

〈ポスターセッション〉

診療放射線技師

竹澤 光晴



国立病院総合医学会において「島津RAD speed proの線量計算ユニットの精度確認」についてポスター発表を行いました。

放射線診療部は、昨年度6月に一般撮影装置一式を更新しました。増えた機能として、線量計算ユニットという入射表面線量の推定機能があり、X線照射をする前に装置独自の計算によって入射表面線量を求めることができます。しかし、実際その数値通りの線量が出ているのか疑問がありました。そこで、X線照射の実測が計れる電離箱線量計を用い、精度の確認を行いました。その結果、誤差は想定範囲内であったことを発表しました。

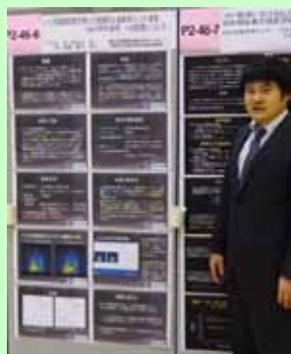
私は、学会で発表することが初めてでしたので不安でした。しかし、実際に会場の放射線技師の方々と色々話すことが出来、落ち着いて発表することが出来ました。とても、良い経験になりました。

最後にこの発表をするにあたりご協力して下さいました皆様に深く感謝いたします。

〈ポスターセッション〉

診療放射線技師

宍戸 淳



第66回国立病院総合医学会において「ノイズ低減処理を用いた画像の心筋MIBGシンチ検査 (smartMIBG使用) への影響について」の発表いたしました。

日頃は診療放射線技師として放射線診療部でCTやMRIなどの画像検査を行っています。今回は核医学検査についての発表してきました。核医学検査はレントゲン撮影のように多くの患者さんが受ける検査ではありませんが、体の機能や代謝を知るためには重要な検査であります。

核医学検査はその特性として画像がボケているように見えてしまいます。今回は少しでも画質や検査結果が向上するように工夫をしたことについて発表しました。画像診断の向上を通して患者さんがより良い治療を受けられるように今後も努力していきたいと思っております。

クリスマスコンサート



～クリスマスコンサートを終えて～



クリスマスコンサート実行委員
田村 奈穂 (クラリネット)



突然ですが、問題です！Q：病棟の患者さんだけでなく、外来の患者さん達が自宅からわざわざ出向いてくださる国府台病院の年に1度の大きな冬のイベントと言えませんか？？・・・そうです！A：クリスマスコンサートです！ 昨年も12月21日（金）15時30分からリハビリテーション室（リハ室）にて盛大に開催されました。どんなコンサートだったのか、おいでになれなかった方のために舞台裏も含めてちょっとお教えいたしましょう。

昨年秋に新病棟が完成したので、新病棟で開催されるかも？と期待されていた方もいらっしやったかもしれませんが、音響・舞台準備などを考慮いつものリハ室の方が適しているということで例年通りリハ室で行われました。出場団体は去年と同様のアンサンブル国府台、carmen、fremingの3団体でした。室内楽（小さな管弦楽）の豊かな響きの歴史あるアンサンブル国府台、妖艶さと力強さをあわせ持つフラメンコダンスのcarmen、思わず体が動いてしまうノリノリのロック・ポップスバンドのfremingです。目を閉じればすぐ・・・イルミネーションのきらめく色たち、あちこちに見えるサンタさんの赤い衣装、会場の空間いっぱい響く音と熱気、お客さんの暖かい手拍子と歌を口ずさむ声・・・など思い出されます。実を言いますと、緊急手術や、直前のメンバーのウイルス感染、当日のメンバーの緊急の仕事などの様々なハプニングがありながらのドキドキの演奏会でした。演奏会を開くにあたっての準備には、ポスター・プログラム作り・会場設営で事務部の方々に、勤務体制の配慮や衣装・装飾・当日のスタッフとして看護部の方々に、リハビリ室使用の快諾・会場設営・装飾・当日の患者さんの搬送などスタッフとしてリハビリテーション部の方々に大変お世話になりました。ありがとうございます。そして何よりも寒い中（特に病院内の寒い廊下「シベリア街道」を通過）会場まで足を運んでくださり、一緒に演奏会を盛り上げてくださった一人一人のお客さんなくしてはできないコンサートだと感謝しております。本当にありがとうございました。（次ページへ続く）

(前ページから続く)

私たち職員は病棟や外来では日々「チーム医療」を実践しているわけですが、年に1回のクリスマスコンサートでは国府台病院の職種の垣根を越えた「チーム力」がまさに試されていると感じています。様々な職種が息を合わせて出来上がる手作りのコンサートで、良かった点もあれば至らない点もあったと思います。個人的な感想を述べさせていただきますと、「ポスターみたよ！きれいだね」「演奏会行っていい気分転換になった」という患者さんや病院スタッフの一言でなぜかものすごく心が溢まるという経験をさせていただきました。

最後に、コアなファンしかご存じないかもしれませんが、緊急手術でコンサートには残念ながら参加できなかったハンドベルシスターズは、手術終了後に人知れず外来待合ロビーや病棟に赴き、ミニコンサートを開いていました。病院のあちこちで音楽が流れるというのは、クリスマスが起す奇跡と言っているのかもしれないね。

きっと今年も年末に開催されるクリスマスコンサート。今度、あなたもおいでくださいませ。何かいいことが起こるかもしれませんよ。



— プログラム —

サンタが街にやってくる	アンサンブル国府台
2つのバイオリンのためのソナタ第6番	バイオリン二重奏
木管五重奏曲 変ロ長調より第一楽章	木管五重奏
歌劇アイダより凱行進行曲	アンサンブル国府台
セビジャーナス	carmen
タンギージョ・デ・カディス	carmen
ルパン三世'78	freming
テネシーワルツ	freming
Pride of Lions	freming



消防訓練を実施して

当院では防災対策の一環として例年消防訓練を行っており、本年度は12月12日(水)に市川市西消防署立会の下、訓練を実施いたしました。

今回は東1病棟(1階)からの出火を想定し、約70名の職員が参加して訓練を行いました。

14時00分、東1病棟看護師の「訓練火災発生」の大きなかけ声で訓練を開始し、消防署への通報と院内放送、屋外避難場所への本部及び救護所の設置、患者さんの避難誘導、初期消火、救護活動等の訓練を行いました。

避難訓練では、模擬患者役に職員が扮して、非常口3箇所から屋外避難場所まで、実際にベッド・車椅子を使用して避難誘導を行いました。

訓練火災発生から鎮火、避難誘導まで一連の訓練を終了した後、市川市西消防署のご指導により消火器の実地訓練を行いました。

最後に市川市西消防署より「今回の訓練結果を踏まえ、夜間の場合も含め実際に災害が起こった時にどう行動すればいいのか、日頃から職員一人一人が意識し、いつ災害が発生しても常に地域の患者さんを受け入れていただけるような体制づくりに努めていただきたい。」との講評をいただきました。

院内の火災・災害への対策をより一層確かなものとしていけるよう、職員一人一人が防火・防災への意識をさらに高揚させ訓練を終了しました。

事務部 管理専門職
南雲 文明



児童精神科病棟の行事

～もちつき～



東3病棟 看護師
芦田 真理子

12月6日(木)に中学3年生の高校合格祈願と、日本の伝統文化に親しみ、協力と思いやりや仲間との交流を深める目的で行われました。

参加人数は、入院児童42名と分校通学生12名と職員合わせて合計80名程でした。もちつきは、事前の準備(前日)が大事になります。臼・杵の係は分校の倉庫から運びだし、もち調理の係は、餅の調理に必要な鍋や蒸し器・お皿・お椀を洗いました。買い出し係は通級生で、もち調理の材料・雑煮の材料を分校の先生と共に買い出しに行きました。米洗い係は、もち米15kgを洗い大きなボールに入れ一晩水に浸しておきました。

当日は9時過ぎから病棟配膳室にて米を蒸し始め、病棟ホールにマットとブルーシートを敷いて臼を乗せ、会場を準備しました。雑煮は中学3年生が中心になり分校の調理室で野菜と肉を切り煮込みました。

いよいよ本番の臼と杵を使っての餅つきです。順番に並び、一人10回ずつ餅をつきました。餅つきを初めて体験する子どもが多く、杵の重さと臼に降ろすタイミングと餅の抵抗に戸惑いが見られましたが、みんなで「よいしょ、よいしょ」と掛け声をかけながら男の子も女の子も全員が餅つきを体験しました。つきたてのおもちは、ボールに入れ熱いうちに、「あんこ」「きな粉」「醤油・海苔」「雑煮」に取り分け、調理を行いました。多少粒もありましたが、こしのある美味しいおもちが出来上がり、皆でいただきました。昼休みをした後に、子ども達全員で後片付けを行いました。



栄養一口メモ

臨床栄養管理部 栄養主任
管理栄養士/病態栄養専門師 古田 雅

★☆☆ 今回のテーマは、亜鉛です。 ★☆☆

少ない量でも不可欠な栄養素！

亜鉛は、味覚を正常に保つのに必要な栄養素であり、皮膚や粘膜の健康維持を助ける上でも不可欠な栄養素です。また、たんぱく質や核酸の代謝に関与して、健康の維持に役立ちます。

更に、肝臓病で療養中の際には、亜鉛は肝線維化に対して抑制的に働くことから、肝臓病の悪化を防ぎ、治療効果を高める可能性が期待できます。

普段から肉類や魚介類、野菜を満遍なく摂取する習慣がある方は不足の心配は少ないですが、偏った食生活によっては味覚異常等に繋がる可能性も生じてしまいます。

亜鉛を豊富に含む食材の代表格は牡蠣ですが、今回は牡蠣が苦手な方でも手軽に食べられ、刺身やサラダの他、煮物、炒め物など、温と冷のどちらでも美味しく摂れる”旬”の食材を紹介します。

ほたて貝

養殖が主ですが、旬は冬。亜鉛が豊富に含まれており、豊富なたんぱく質はビタミンCやカルシウム、鉄や亜鉛の吸収を高める効果があるので、緑黄色野菜と一緒に食べることが望ましいです。

亜鉛の他にも、ほたて貝に含まれるアミノ酸のタウリンは血液中のコレステロールを下げ、血圧が上昇するのを抑えたり、視力の低下を予防する働きがあります。

また、気道の収縮を抑える作用もあり、喘息にも効果的です。もちろん、良い効果ばかりを期待するあまりに食べ過ぎてしまうのは禁物ですが、低脂質でありながら良質のたんぱく質を含む健康食材です。

生食でも美味しくいただけますが、野菜と一緒に炒めたり、温かく煮込んだ御料理もお勧めです。



〈ほたてと冬野菜の和風煮〉

・材料(2人分)

ほたて缶 40g、白菜200g(葉2枚程)、春菊50g(1/4束)

・調理時間 約20分

①白菜はザク切りにする。

②春菊は軸から葉を摘み取り、食べやすい長さに切る。

③水溶き片栗の材料(片栗粉:大さじ1/2、水:大さじ1)を混ぜ合わせる。

④鍋に白菜、だし汁200mlを入れて火にかけ、煮たったらほたて(汁ごと)、酒大さじ1杯、醤油大さじ1杯を加えて7~8分煮込む。

⑤再び煮たったら春菊を加え、しんなりしたら、水溶き片栗を回し入れてトロミをつけ、器に盛り付ける。

肝臓病教室のご案内(第9回)

日時：平成25年3月16日(土曜日)
13:00～15:00

場所：市川市男女共同参画センター 7階
市川市市川1-24-2
◇西消防署の建物です

参加費：無料(予約不要)

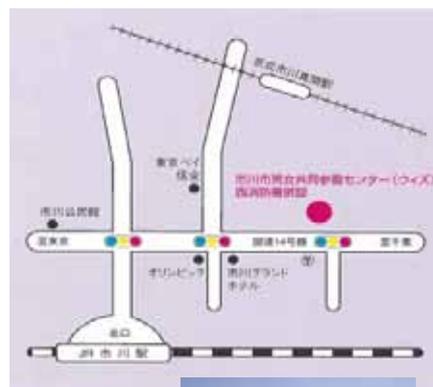
プログラム：司会 村田一素 肝疾患先端治療室長

- 肝硬変の食事管理について
～合併症がある場合の食事の進め方～
古田 雅 栄養係主任

- C型肝炎：新たな治療の幕開け
溝上雅史 肝炎・免疫研究センター長

※ 終了後に個別相談(肝炎、肝硬変、肝癌を中心に)も行います。
※ ご相談のある方は血液検査・CTなどの資料をお持ちいただくと、
状態に応じた詳しい説明をお受けになれます。

お問い合わせ先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院
肝炎・免疫研究センター 村田一素 TEL: 047-375-4757(直)



西消防署

市民公開講座のご案内(その1)

テーマ：一人で悩まなくても大丈夫 ～大人と子どものこころの病気～

日時：平成25年3月2日(土)
13:30～15:30

場所：肝炎・免疫研究センター1階研修室(国府台病院の敷地内)

講師：心療内科医師 石川俊男
児童精神科医師 宇佐美政英

参加費：無料 ※事前申し込みは不要です

お問い合わせ先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院 TEL: 047-372-3501(代)
3階南病棟看護師長 金居久美子
事務部管理専門職 南雲文明



肝炎・免疫研究センター

市民公開講座のご案内(その2)

テーマ：知っておきたい 胃がん・大腸がん ～治療から日々のケアについて～

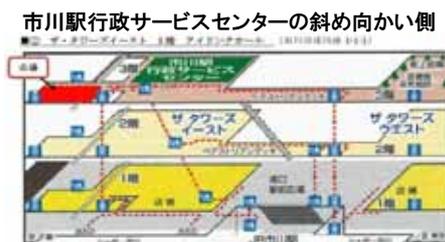
日時：平成25年3月23日(土)
13:00～14:30

場所：ザ・タワーズイースト3階 アイリンクホール会議室1・2

講師：外科医師 増田晃一
認定看護師 山崎、朴、根本、小岩井

参加費：無料 ※事前申し込みは不要です

お問い合わせ先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1
国立国際医療研究センター国府台病院
副看護師長 感染管理認定看護師 朴(パク) 桂栄 TEL: 047-372-3501(代)



編集だより

編集長

“「大門通り（だいもんどおり）」をご紹介します”

JR市川駅から北へ向い国道14号線に出て東京方面（左）へ100m程のところに大門通りの入口があります。弘法寺に至るまでの直線1kmほどの長い歩行者通りです。この通りには、お蕎麦屋さん、老舗の和菓子屋さん、お肉屋さん、居酒屋さんなど様々なお店が静かに並んでいます。朝は市川駅へ急ぎ足で向かう通勤通学の歩行者と自転車の専用道路で混雑し、夕方からはお買い物される方々の商店街となります。

この通りには、市川にゆかりを持つ書家の方々による万葉の歌のパネル（26枚）が民家の壁に取り付けられています。この「万葉の歌パネル」は、以前から通りの壁に設置されていたものを平成20年に真間山弘法寺より寄贈を受けた市川市が改修し地元の方々のご厚意で再設置されたということです。

大門通りを進み、バス通りの市道を超えて、京成電鉄の踏切を渡り、真間川の橋を渡ると「真間の継橋」があります。赤く塗ったコンクリート造りの欄干が取り付けられているのですが、橋というよりはモニュメントで川は流れていません。

ちょっとした和風庭園の中の橋と言う方が適切かも知れません。ここには「つぎはし」と刻まれた石碑とともに市川市が設置した案内板があります。下総の国府があった時代は、ここは東京湾の入り江になっており道が分断されて、それをつなぐ橋として「継橋」がありました。橋の先は入り江となっており、すぐ近くが海であったようです。

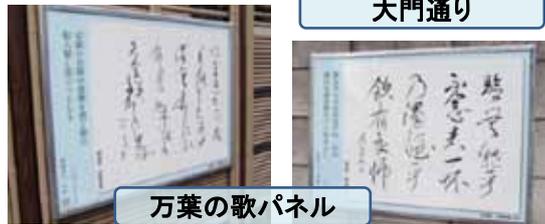
「継橋」を過ぎると、手児奈霊堂の入口、そして弘法寺の階段が見えて来ます。



大門通り



つぎはし



万葉の歌パネル



市川市教育委員会説明板



大門通り

市川アイ・リンクタウン展望施設から撮影